

第28号 昭和61年 1 月 15 日
 発行者 群馬県山岳連盟
 〒371 前橋市大手町1丁目1-1
 TEL (0272)23-1111
 群馬県庁観光課内
 編集 群馬岳連編集委員会
 責任者 悴田正也
 責任者 森田印刷
 印刷所 森田印刷
 定価 1部 100円

「群馬の山」編集準備の その後について



群馬の山編集委員会
事務局長 川 辺 柳 一

嶺邑27号にて、概要を記しているが、委員会の中で具体的にこの項目の内容を報告致します。

一、地域の紹介

県内を特徴において九分割致しました。これは、関わる山地の条件・気候・あるいは、交易などで接する県外の影響を色濃く反映しているためではないかと思う。

伝承されている行事のなかには独特なものも多く、山々との関わりのおかげで、民俗学的な考察までふみ込めればと考えている。

二、山の成りたち

最近の調査で、地質学的に大変貴重な資料が得られたとこと一部については書き換えられることになりそうである。これらの資料が発表出来ればすばらしいことになりそうです。

山が生れてより現在までのなりたち。あるいは、資料が求められるなら、気温・降雨・積雪量などについての資料をぜひとも載せたいと願っています。

三、動植物

植物については、すでに幾多の本で発表されているため、二番、湯の小屋に至り、咲倉尾根(仮称)で分けた区域とする。

四、地域の分割

県内を九分割してみました。無理矢理九分割した印象を与えないでもありませんが、主に一般的な認識に従いました。

境界については名称と合致しない部分も有りますが、地元の考え方とか、行政上の区分などを考慮して線引きを行いました。

① 尾瀬

大臼沢山から始まる境界により北側から東側にかけて尾瀬をかみ、奥日光の白根山を経て宿堂坊山へ至り、浮川沿いに区分した。

② 武尊

沼田から北の、分流する利根川と片品川に挟まれた地域とし、北

⑤ 上越

実際の上越は、尾瀬の東電小屋付近から、白砂山までの間となり、尾瀬と奥利根とした地域を分離し、残りの宝川源流の一八二〇米ビークから、清水峠―谷川岳―三國峠を経て、利根・吾妻郡の郡界で分けることにしました。

⑥ 上信

利根、吾妻の郡界から、白砂山から鼻曲山に至る境界で区切り、内側は、中之条から暮坂峠で長野原まで区分し、羽根尾から国道一四六号沿いに北軽井沢、ここからこの案で決着した。

⑨ 中央部

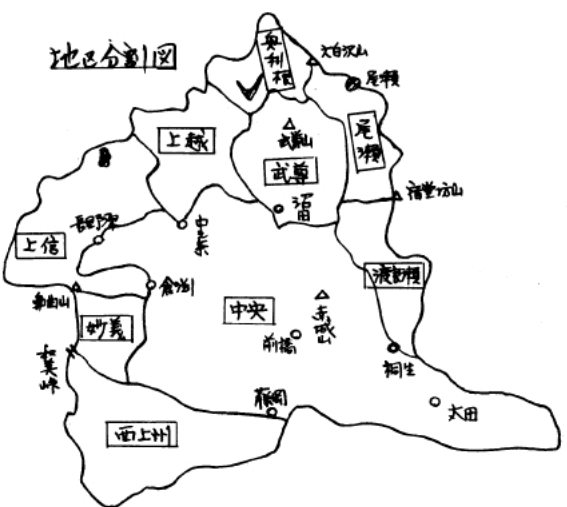
残り部分すべてとなります。五、登山コース
 倉淵まで二度上峠を通る車道で権田まで至り、三ノ倉から地蔵峠を倉淵と松井田町の境界で鼻曲山に至る区域とした。

⑦ 妙義

鼻曲山から地蔵峠へ、車道沿いに松井田に至り、妙義町の日向かゆみない開発にさらされ日毎にその姿を変えていき、数年前の知識では、とうていこの変化に対応出来ない状態にあると言えます。

⑧ 西上州

和美学から女街道に沿って中小板に至り、そこからは国道二五四号線で藤岡市に至る道路で区分する区域内となりました。



① 利用出来るコースの最新情報を内容とした。
 ② 出来るだけ多くの山と溪谷を紹介する。
 ③ 特殊な地域(利根源流)についても紹介する。
 ④ 無雪期・積雪期両方の情報を取り入れる。
 以上の基本的な方針によりまして皆様へ原稿をお願いすることになりますので、宜敷しく協力下さるようお願い致します。



子持山は、北群馬、利根、吾妻 三郡にまたがる截頭圓形の一休火山で、大黒岩を中心に放射状の岩峰群を有し、標高1296メートルをなす。また、古くから「子さすけの神」、「子育ての神」として人々から信仰されていた山である。

登山コースとしては、主として子持村方面、高山村方面、沼田方面からのいくつかのコースがあるが、ここでは、それぞれの代表的な三コースを紹介しす。

子持コース
東武バス、渋川→沼田間の子持入口にて下車。双林寺を過ぎ、なだらかな坂を登って行く。松並木が見えてくる。ここはシーズン中いて簡単に頭に登れる。ここから尾根沿いに一時間程度で頂上に着く。

参考タイム
子持入口→20分 双林寺→25分 松並木→20分 子持神社→40分 登山道入口→15分 屏風岩→1時間 大黒岩→1時間 子持山頂→1時間 下山→1時間

東武バス、中之条→中山本宿線
終点中山本宿にて下車。子持牧場まで、子持牧場下車。中山峠方面へ向かう。この道は、旧三国街道で、中山は宿場町であった。途中右手に上毛森林カントリー倶楽部ゴルフ場、子持牧場を見ながら国民宿舎「わらび荘」へと向かう。わらび荘への分岐路の場所が登山道入口である。

東武バス、中之条→中山本宿線
くねくねとした緩い単調な坂道を松林を縫うようにマイクローウェー目指して登る。振り返ると子持牧場、小野子山の景観が素晴らしい。マイクローウェーから左の尾根を一直線に登ると、途中沼田方面からの登山道と合流する。ここからは、もう目の前に山頂にある石碑が見えてくる。

参考タイム
中山本宿→40分 わらび荘→1時間 間→マイクローウェー→20分 子持山頂

かくされた山 ⑮

子持山とその岩場

ミヤマ山岳会

また、中山本宿から約一キロメートル歩くと火の見橋があり、和田というバス停がある。ここから東に向かっている道に入ると山道になり、畑地を過ぎると道の回りの木々がトンネルのように包みこんでくる。和田のバス停から約一時間程度で小峠に着く。ここまでの登りはきつくないが、この時から南の子持山を目指しての尾根道は、始めは緩やかだが、だんだん急になって尾根上で高山コースの登山道と合流する。ここから十分で山頂に着く。

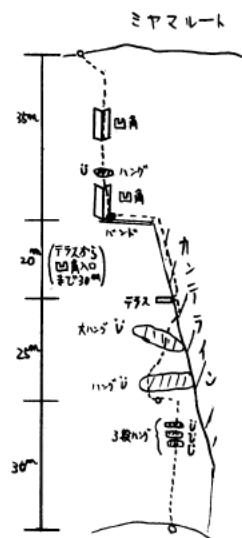
参考タイム
中山本宿→15分 和田バス停→1時間 小峠→1時間 子持山頂

沼田コース
東武バス、沼田→中山本宿間の横子部落、子持山入口にて下車。ここから登山道に入る。登山道は雑木林の中を抜けていくように走っている。北側のため、チョットとひんやりする感じが、一時間程度で小峠に着き、和田バス停方面からの登山道と合流する。

参考タイム
子持山入口→1時間 小峠→1時間 子持山頂

(文責 千明政彦)

子持山大黒岩登攀ルート



A 正面フェースルート
全体に逆層気味のルートで、岩の弱点を着実にとらえた爽快なルートである。傾斜の緩いフェースから右上クラックを登りレジに立つ。傾斜は強まり五メートル程直上し、小さな二段のレジを頼りにバンドに出る。ここから左右にルートがとれ、左はクラックを、右はフェースを登る。両方もボサテラスに出て外傾バンドに達する。バンドを左にトラバースし、線線に出て登攀終了。

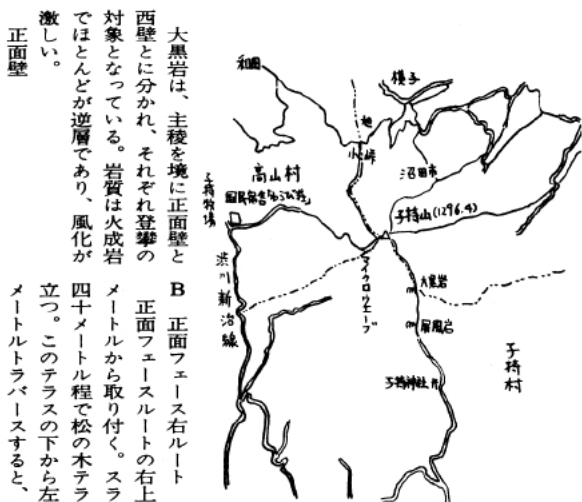
B 第二ライオンルート
逆層のフェースから取り付き、草付きテラスに達する。オムスピ岩を左から回り込み、直上してハング下を左へトラバースし、四角に入る。五メートル程直上して松の木バンドに出て、頭上のハンガを

越えてフッシュ帯に入り、十メートル左にトラバースして大ハンクを目指す。ここから大ハンク直下の凹角までのフリーが難しい。凹角は右側を直上して六メートル張り出したハンクを乗越してバンドに立つ。左へ五メートルトラバースし、三メートルのフェースを直上して頂上に達する。

C 主壁
正面壁と西壁を分ける稜で、全体的に横木を重ねたような形状をしていて、浮石が多く支点が不安定である。フッシュ帯の凹角から大テラスに達し、フェース、バンド、凹角を経てテラスに出る。フェースを三メートル直上し、バンドに出て左にトラバースする。急傾斜のクラックを登り、さらにフェースを登りレジに立つ。右手のハンク下を左にトラバースしてフッシュ帯に入る。その中のレジを登り、フェースを直上して登攀終了。

A 第一ライオンルート
取り付きから二十メートルで野ユリテラスに出る。ハンクを越えて右上にルートをとる。レジに達するが、極度に悪い。ハンクを二つ越え、五メートル張り出した大ハンクを乗越し、垂直二メートルでテラスに達し、三メートルのフェースを直上して登攀終了。

A 左カンテール
取り付きからハンクが連続し、ポルトに導かれてカンテール沿いに直上する。二ピッチ目はBルートと合流し、さらに直上して松の木テラスに達する。ここから左



大黒岩は、主稜を境に正面壁と西壁とに分かれ、それぞれ登攀の対象となつている。岩質は火成岩でほとんどが逆層であり、風化が激しい。

B 正面フェース右ルート
正面フェースルートの右上十五メートルから取り付き、スラブを四十メートル程で松の木テラスに立つ。このテラスの下から左へ二メートルトラバースすると、正面フェースルートのチムニー上の大テラスに出られる。松の木テラスからは、灌木混じりのスラブを約三十五メートル右直上して登攀終了。

西壁
子持山屏風岩登攀ルート

子持山屏風岩登攀ルート
屏風岩は高度差約百十メートル幅約八十メートルのスケールを持ち、ほぼ垂直の岩壁で、左半分に登攀ルートがある。下部は逆層のフェースと一連のハンク帯からなり、上部は岩松や岩茸が付着した急傾斜の壁である。

A 左カンテール
取り付きからハンクが連続し、ポルトに導かれてカンテール沿いに直上する。二ピッチ目はBルートと合流し、さらに直上して松の木テラスに達する。ここから左

上毛スポーツ賞受賞 山田昇氏に

本年度の上毛スポーツ賞対象者として群馬県連が推薦した山田昇氏(沼田)に対し、このほど大学一般部門での上毛スポーツ賞が授与された。直接の決定理由は、昨年日本ヒマヤ協会によるカンチエンジュンガ(八六一m)登山隊に副隊長として参加し、七月二四日に、無酸素で登頂に成功したことを含む数々の登頂記録がひとときをわびてお祝いすることであった。氏は沼田高校時代から山岳部に属し、その中心メンバーとしてインターハイにも出場した。その後、社会人となり、高みへの挑戦。登山家として研鑽を積み今日に至っている。御承知のように、群馬岳連のダウラギリI峰(八二七m)と東南院からの初登頂を皮切りに、五六年カンチエンジュンガ(八五八六m)、五七年北西院からのダウラギリI峰、五八年ロツツエ(八五六一m)、エベレスト(八八四八m)、六〇年カンチエンジュンガ・再度エベレスト。そして二月にはマナスル(八八五六m)に登頂した。マナスルに登頂しており、昭和三年五月一日に日本人初の八千m登頂となった登山隊が頂上の岩かげに置いてきたタバコの空き缶を拾得してきたこともニュースに新しい。

常任理事報告

期日 昭和六〇年一月九日(水) 九時〜体育協会議室

出席者 星野・小林・田中・太田 樋口・川辺・女屋・羽野・大沢 村上・長谷川・須田・富山・笠原・寺内
小林副会長挨拶 県会(ヘリコプター購入の問題)が取り上げられたが、予算を伴うので、順番待ちになるかと思いますが、もしそうならば、それなりの対応をしなければならぬ時代になるであらう。

〇本部報告 編集部 嶺呂二七号が完成した。Dシャツ在庫二〇着・未納のTシャツ在庫二〇着・未納の

町での日山協自然保護委員会総会に出席した。各県の自然保護運動の現状を出し合い話しあった。群馬としては、清掃登山の実験例や朝日岳の問題を報告した。どの地域でも同じようだが、最終的結論としては、登山者が自然を破壊するケースが非常に多いこと。山でのし尿の問題や環境庁のレイジャーについても、もう少し岳連の枠を拡げて、自然保護の面で資格を活用していったらどうかが出されました。

山岳会 六団体あり。〇遠討部 一〇月二三日(日)の秋の救助訓練を谷川岳から榛名黒岩へ変更。〇自然保護部 朝日岳キャンパス調査報告 九月中に調査する予定が雨のため、一〇月二日、笠原が調査・写真もった宝川から四時間穴を掘ってゴミを埋めた所もあった。富山さんを通して県の自然保護対策案へも調査依頼・ハイカーより登山者の責任・ゴミ持帰りやテント禁止の措置が必要である。(笠原発言)

朝日岳は、稜線を境にして湯楯曾側は国立公園、宝川側が県自然環境保全地域に指定されている。県自然環境保全の指定地域は、白毛門から柄沢山まで約六八〇ヘクタール。特に朝日岳の周辺は動植物保護地区であり、四五〇種が指定対象である。その中には、ホソバヒナユスキノウやカトウホコなど、至仏山と同じ蛇紋岩質の土壌に生育する貴重な植物がある。現在、植生復元施設や排物処理施設を保全事業で行う計画がある。当然県が責任をもつて管理するはずだが、対応が遅れている。是非岳連としても、管理費の予算化をお願いしたらどうか。今までは、奥利根山岳会が若干の費用が予算化されているなかで、ロープを張ったり、ゴミのかつき下ろしを請け負っていることのみが実状である。(富山)

自然保護委員会報告 一月五日(日)に秋田県田沢湖

町での日山協自然保護委員会総会に出席した。各県の自然保護運動の現状を出し合い話しあった。群馬としては、清掃登山の実験例や朝日岳の問題を報告した。どの地域でも同じようだが、最終的結論としては、登山者が自然を破壊するケースが非常に多いこと。山でのし尿の問題や環境庁のレイジャーについても、もう少し岳連の枠を拡げて、自然保護の面で資格を活用していったらどうかが出されました。

山の破壊などか自然保護の問題については日山協としても積極的に動きたい。ただ、地元を要請がなければ、日山協も動けないので、今後も協力・連絡したい。 *

日山協の自然保護委員長から、残雪期のマチが沢で、雪に塩をまいてスキーをやる者がいて、植生にあたる塩害が大きいのではないかというこの連絡があった。地元岳連の意見を聞きたいとのことなので、今後の意見をまとめた。

〇総務部 上毛スポーツ賞の推薦候補について。(山田昇(沼田)を推薦)また桐生山岳会のメンターサ登頂は県体育協会会長賞へ推薦。会費未納の会へ請求書を送送。その他 群馬の山行についての基本事項の提案あり。(検討)

一月六日(日)に延期。 一月一〇日(日)に延期。

〇国体部 報告事項なし 関剛芳氏(沼田)に感謝状を贈呈したい。(検討し、煮つめる)

(かくされた山つづき) へ移り壁の裏側をトラバースして屏風岩の頭に出る。松の木テラスから直上することもできる。

B ルート カンテールの右側から取り付く。身体が振れそうになるハング帯を左から右へと越え、フェースを直上し、右(五メートル)トラバースしてテラスに達し、Cルートと合流する。さらに左上して左カンテールと合流する。

C ルート 御堂左の二本杉の左から取り付く。かぶりぎみのフェースを登り、御堂の右から取り付く。フェースを登るとハング帯になり、これを越えようとバンドに達する。岩松と岩茸の混じったフェースを直上すると松の木テラスに出る。

D ノーマルルート 御堂の右から取り付く。フェースを登るとハング帯になり、これを越えようとバンドに達する。岩松と岩茸の混じったフェースを直上すると松の木テラスに出る。

E モミジルート モミジの大木から取り付き、緩い傾斜のキャンテールを直上し、部分的にかぶつたフェースを登る。急傾斜の逆層のスラブを登り、左へとトラバースすると大きなテラスに出る。ここからフェースの右側を登り、レッジになってから左上すると尾根に出る。

F ミヤマルート モミジルートよりさらに北、屏風岩のほぼ中央付近に取り付き。垂直の逆層のフェースから三段の小ハンクを越えたとハング帯になり、ハンクの下を左へ約三メートル

トラバースする。ハンクを乗り越えたと垂直のフェース。さらにその上は大ハンクが行く手を拒むが、これを越えたとカンテールに出る。カンテールを約五メートル直上してキャンテールを左に回り込むと三ヶ所入るテラスに達する。さらに急なカンテールのフェースを登り、外傾したバンドを左にトラバースして四角に入る。四角を抜けるとハンクがあり、そこを越えたと再び四角となる。その上は灌木で屏風の頭に出る。

(文責 女屋等志) 群馬ヒマヤ山岳会紹介 当会は県立前橋商業高校山岳部OBにより、一九五二年(昭和二十七年)四月に発足した。会名の「ミヤマ」と呼ぶ由来は、上毛三山からであるが、故大隈宏創立会長は、「山登りをする者は、山や自然に対していつも謙虚であり、敬虔な気持ちを持ってはならない。故に『御山』(ミヤマ)とも書ける。また、自然や山というものは偉大であり、『山』というものは奥行きが実に深い哲学的なものである。故に『深山』(ミヤマ)とも書ける。そして、山というものは荘厳であり、本当に美しい存在である。故に『美山』(ミヤマ)と書き、意味がある。これが、『山を愛し、人を愛し、己を愛す』という言葉同様、大隈宏初代会長の哲学を基本理念とし、『群馬ヒマヤ山岳会』と命名したのである。会の活動の歴史としては、一九六三年(昭和三十六年)県岳連の

県境縦走参加。一九六六年(昭和四十一年)から三年間にわたり奥利根合宿を行い、本流を始め七本の沢を遡行した。一九六九年(昭和四十四年)三月には、県内で初の海外登山として、台湾省玉山に遠征した。その年四月に子持山屏風にミヤマルートを開拓した。また、岳連の第一回ダウラギリ四峰遠征を契機に、日本ヒマヤ協会カモシカ同隊などのヒマヤ登山にも会員が参加し、活躍している。現在では、エベレストを始め、通常の会員の山行は、谷川岳を中心に行い、一九七四年から冬、春、夏の合宿を北アルプス剣岳に焦点をしばり、会独自のヒマヤ遠征を夢にして、『冬の剣岳からヒマヤへ』通じる登攀能力を、合言葉に行っている。

現役会員二十一名 OB二十四名 事務局 前橋市石倉町一四一四 柴田義孝方 柴田義孝 会長 柴田義孝

嶺呂のいわれ 嶺呂とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は山々。峰々の意味。呂は親愛・感動の意をこめて使う接尾語。万葉集上野国(の歌の中に「久呂保の嶺呂(赤城山)とか、伊香保の嶺呂(赤城山)などという風に使用されています。命名は故浜名一雄前会長です。

嶺呂のいわれ

嶺呂とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は山々。峰々の意味。呂は親愛・感動の意をこめて使う接尾語。万葉集上野国(の歌の中に「久呂保の嶺呂(赤城山)とか、伊香保の嶺呂(赤城山)などという風に使用されています。命名は故浜名一雄前会長です。

嶺呂のいわれ

嶺呂のいわれ

嶺呂のいわれ

わかとり国体報告

水野金太郎

第四十回国民体育大会秋季大会
山岳競技会が、鳥取県の大山・隠岐国立公園内の、大山・蒜山を中心にして、十月二十日〜十月二十五日までの六日間、選手、監督三五六名の参加により実施された。

大山は伯耆富士と呼ばれ、山陰地方のシボルグの名山であり、かつては山岳信仰の修験道場として全国にその名が知られている。

大山では、過去に第六回国民体育大会、さらに第十七回全日本登山体育大会が実施され、全国の登山者に親しまれている山です。

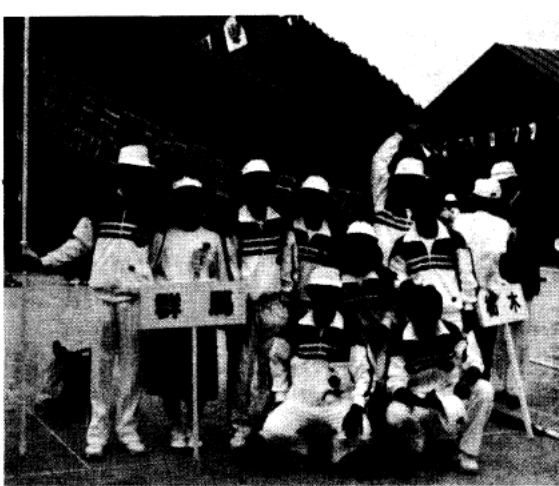
今回実施された、山岳競技会場は、縦走競技会場として大山・船上山山系に2コース(T、T)で成

年男子を対象とし、蒜山山系に2コース(T、T)で、成年女子及び少年男子・女子を対象とした。調査競技会場は、成年男子の会場として、大平原会場(S)又、成年女子及び少年男子・女子は関金会場(S)で行われた。

山岳競技会場は船上山東壁において成年男子・女子により行い、関金町ほか三町の連合実行委員会により、天候にも恵まれて成功裡に実施された。

なお、大会における本県の参加者及び山岳競技の成績は、左記のとおりです。

△成年男子
監督 水野金太郎(沼田)



開会式場で群馬県選手団

- 選手 原沢幸雄 (むすび) 6 第四位 群馬 88・85
後藤文明 (境町) ◎成年女子総合 第一位 鳥取 349・25
中西和弘 (伊勢崎) 25・55 第三位 京都 32
楠野光一 (ミヤマ) 4・44 第六位 群馬 319
- △成年女子
監督 高田政美 (登高会) 4・5
選手 藤本好子 (登高会) 40・0 第二位 山梨県 31
泉沢明江 () 0 第三位 山梨県 28・0
串戸和子 () 0 第三位 山梨県 28・0
- 山岳競技種目・種別成績
【成年男子】▽縦走競技 第一位 鳥取 170・84 第二位 山口 165・32 第三位 愛知 164・93 第十三位 群馬 144・26
- ▽踏査競技 第一位 大分 88・95 第二位 長野 88・05 第三位 鳥取 86・95 0 群馬県 1・0
- 【皇后杯順位】第一位 鳥取県 14・5 第二位 山梨・山口 10・0 0 群馬県 1・0
- △成年男子
監督 水野金太郎(沼田)

- 山岳競技種目・種別成績
【成年男子】▽縦走競技 第一位 鳥取 170・84 第二位 山口 165・32 第三位 愛知 164・93 第十三位 群馬 144・26
- ▽踏査競技 第一位 大分 88・95 第二位 長野 88・05 第三位 鳥取 86・95 0 群馬県 1・0
- 【皇后杯順位】第一位 鳥取県 14・5 第二位 山梨・山口 10・0 0 群馬県 1・0
- 総合成績と天皇・皇后杯との順位の相違は、算出基礎における種別優勝得点による増加による異動です。
- 第四十回国民体育大会が終了した現在、振り返って見ると、近年は山岳における山岳競技は、関係者の関心も高まり、開催地・後援者の筆頭近県や例年の上位県など、会場地での選手強化は目を見張るものがある。
- 特に登攀競技会場の混雑が目につく、各チームの練習の合間をぬって、早朝や雨の中であろうやく練習し、開催県チームなどは、夜間照明をして練習する有様であり練習会場が、一カ所しか無い山岳競技の宿命ではないだろうか。

今回の群馬県チームの敗因を考えると、全が体力の低さに尽きる。競技の成績を見ても体力強化の進んでいるチームが上位を占めているのが現状であり、監督・コーチの意向が、選手に理解されず、そのまま強化を進め、本大会に臨んだ結果である。

体力強化は短期間で向上は難しく、今後は、各会の協力を得て、選手を早く選出し、できれば多年度的に選手強化が出来れば、常時上位入賞の可能になる。

最後に、国体の選手強化に對して、多数の方に、協力をしていただき、紙面を借り厚くお礼を申し上げます。

今回の群馬県チームの敗因を考えると、全が体力の低さに尽きる。競技の成績を見ても体力強化の進んでいるチームが上位を占めているのが現状であり、監督・コーチの意向が、選手に理解されず、そのまま強化を進め、本大会に臨んだ結果である。

体力強化は短期間で向上は難しく、今後は、各会の協力を得て、選手を早く選出し、できれば多年度的に選手強化が出来れば、常時上位入賞の可能になる。

最後に、国体の選手強化に對して、多数の方に、協力をしていただき、紙面を借り厚くお礼を申し上げます。

今回の群馬県チームの敗因を考えると、全が体力の低さに尽きる。競技の成績を見ても体力強化の進んでいるチームが上位を占めているのが現状であり、監督・コーチの意向が、選手に理解されず、そのまま強化を進め、本大会に臨んだ結果である。

体力強化は短期間で向上は難しく、今後は、各会の協力を得て、選手を早く選出し、できれば多年度的に選手強化が出来れば、常時上位入賞の可能になる。

最後に、国体の選手強化に對して、多数の方に、協力をしていただき、紙面を借り厚くお礼を申し上げます。

常任理事会報告

期日 昭和六〇年一月二三日(休) 一九時
一 九時 体育会館
参加者 小林・石井・太田・樋口 大井・川辺・女屋・羽野・水野 竹山・大沢・高田・長谷川・須田・笠原・寺内・吉田・木村

部会報告
○国体部 わかとり国体報告(別原稿) 二月七八日地区審判員研修(五名参加) 山梨国体主任審判員(T)に水野氏決定。

○編集部 嶺呂二七号発刊。
○指導部 二・三月に講習会予定
○自然保護部 黒岩清掃(別原稿)
○遭対部 一〇月一三日秋季訓練 黒岩で行う。ウインチによる張り込み。新下降具の試験。

黒岩清掃登山

岳連の行事である黒岩地域の清掃が、六十年十一月十日の日曜日(休)に実施された。

岳連では、加盟団体の協力により、毎年七月に谷川岳のゴミ持ち帰り運動と清掃登山、八月に尾瀬の清掃とゴミ持ち帰り運動を実施して、自然保護思想の普及啓発とゴミの持ち帰り運動の推進を図っている。

十一月十日は、朝から雨であったが、ザイル祭等で前夜から幕営していた山岳会の会員を含め、約六十人が参加し、黒岩入口の林道周辺及び黒岩の基部を中心に清掃を実施した。

収集したフカン、ゴミの量は四十袋であったが、これは箕郷町に処理を依頼した。(富山)

岳連の行事である黒岩地域の清掃が、六十年十一月十日の日曜日(休)に実施された。

岳連では、加盟団体の協力により、毎年七月に谷川岳のゴミ持ち帰り運動と清掃登山、八月に尾瀬の清掃とゴミ持ち帰り運動を実施して、自然保護思想の普及啓発とゴミの持ち帰り運動の推進を図っている。

十一月十日は、朝から雨であったが、ザイル祭等で前夜から幕営していた山岳会の会員を含め、約六十人が参加し、黒岩入口の林道周辺及び黒岩の基部を中心に清掃を実施した。

収集したフカン、ゴミの量は四十袋であったが、これは箕郷町に処理を依頼した。(富山)

理事会報告

期日 昭和六一年一月八日(休) 一九時
一 九時 体育会館
参加者 太田・樋口・女屋・水野 竹山・須田・梓田・寺田・八木原・富山・吉田・笠原・長谷川 加藤

部会報告
○海外登山 植村直己物語撮影隊としてエベレストに県岳連関係者五名が登頂(七名中)。海外登山技術研究会が二月二二・二三日八王子であり、中国四川省からの客人が二月末来日。

○国体部 関東地区大会の反省会を一月二五・二六日川場で開催
○遭対部 鹿島橋の件、概要報告が太田・須田両氏からあり。

期日 昭和六一年一月八日(休) 一九時
一 九時 体育会館
参加者 太田・樋口・女屋・水野 竹山・須田・梓田・寺田・八木原・富山・吉田・笠原・長谷川 加藤

部会報告
○海外登山 植村直己物語撮影隊としてエベレストに県岳連関係者五名が登頂(七名中)。海外登山技術研究会が二月二二・二三日八王子であり、中国四川省からの客人が二月末来日。

○国体部 関東地区大会の反省会を一月二五・二六日川場で開催
○遭対部 鹿島橋の件、概要報告が太田・須田両氏からあり。

期日 昭和六一年一月八日(休) 一九時
一 九時 体育会館
参加者 太田・樋口・女屋・水野 竹山・須田・梓田・寺田・八木原・富山・吉田・笠原・長谷川 加藤

部会報告
○海外登山 植村直己物語撮影隊としてエベレストに県岳連関係者五名が登頂(七名中)。海外登山技術研究会が二月二二・二三日八王子であり、中国四川省からの客人が二月末来日。

○国体部 関東地区大会の反省会を一月二五・二六日川場で開催
○遭対部 鹿島橋の件、概要報告が太田・須田両氏からあり。